

II 業種別産業の動向

1 農 林 業

(1) 農林業の現況

◆ 概要

都市農業は、農業就業人口の減少と高齢化、後継者難による担い手不足、兼業化の進行、経営規模の縮小、都市化の進展による生産環境の悪化等、種々の問題を抱えている。さらに、コメの生産調整や輸入農産物の増加等も加わり、都市農業を取り巻く環境は年々厳しさを増している。

また、近年は、無農薬野菜等といった化学肥料や農薬への依存を減らし、消費者ニーズに対応したより安全で良質な農産物の生産を行う環境保全型農業の確立が望まれるなど、転換期を迎えている。

林業についても、木材自給率の低下と価格の低迷、林業就業者の減少と高齢化や、放置森林の増加等多数の問題を抱える中、森林の持つ多面的機能の維持増進を図るため、林業の活性化を通じた森林の健全な育成が課題となっている。

一方で、社会経済情勢の変化に伴い、豊かさやゆとりのある生活を求めて、農林業の体験希望者が増えつつあり、土や自然との触れ合いを求める市民が増加している。また、職業としての農林業への期待や、地球温暖化防止などに対する森林への期待も高まっている。市域面積の7割以上を占める農地と森林を生かし、産業としての魅力ある農林業や、環境や社会の貢献できる農林業など、農林業を市民と一体となって展開していくことが必要になっている。

◆ 農業の現況

京都市においては、古く都であったこと、大都市近郊という地の利、地味の良さ等から多くの良質な農産物が生産され、伝統的に活発な農業が行われている。

しかし、農地と宅地の混在化、後継者難や経営規模の零細化等、都市農業を取り巻く経営環境は年々

厳しさを増しており、より高度な技術の普及、消費者ニーズに合う新しい品目や分野の開拓、経営コストの低減等を進める必要がある。加えて、消費者の食の安心・安全へのニーズも年々高まっている。

このような課題に対処するため、本市では農業の多様な担い手の育成、持続的な農業収益の拡大、施設の近代化、農業生産基盤の充実、農産物の流通体制の整備を実施するほか、生産者表示や安心ブランドの確立、新規品目の開拓にも取り組んでおり、順次浸透しつつある。また、近年は農作物の生産だけでなく、加工、販売までを手掛ける農業の6次産業化への取組も進めている。

◆ 林業の現況

京都市では、北山磨丸太に代表される高度な技術に支えられた林業が行われてきた。平成17年4月に京北町と合併したことにより、森林の面積は増加し、森林の公益的機能の維持、増進に係る林業の役割は重要になっている。

しかし、木材価格の低迷や森林所有者の施業意欲の低下、林業就業者の減少及び高齢化等、林業を取り巻く環境は厳しい状況にある。

そのため、持続可能な林業収益の確保、市域産材の利用促進、林業の担い手育成等を図り、本市林業を活性化することが大きな課題となっている。一方、市民や企業等の参画による森づくりを推進し、循環利用される森や山、また様々な生き物がいる歩いて楽しい森林など、手入れされた森林の役割が社会の認められるようにすることも重要な課題である。

(2) 農業

◆ 農業の状況

平成 22 年度京都市農林統計資料によると、農家戸数は 7,205 戸で、うち専業農家が 952 戸（構成比 13.2%）、農業を主とする兼業農家が 1,241 戸（同 17.2%）、農業を従とする兼業農家が 5,012 戸（同 69.6%）となっている〔表Ⅱ-1-2-1、図Ⅱ-1-2-1〕。

農家人口は 31,470 人で、男女別に見ると男性 14,824 人、女性 16,646 人となっている〔表Ⅱ-1-2-2、図Ⅱ-1-2-2〕。

耕地面積は 3,223.8ha で、田が 2,433.6ha と全体の 75.5%を占めている〔表Ⅱ-1-2-3、図Ⅱ-1-2-3〕。

平成 17 年度統計より旧京北町地域が含まれたため、平成 17 年度は農家戸数、農家人口及び耕地面積は大きく増加したが、それ以降は農家戸数、農家人口、耕地面積はいずれも緩やかな減少傾向となっている。

表Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移

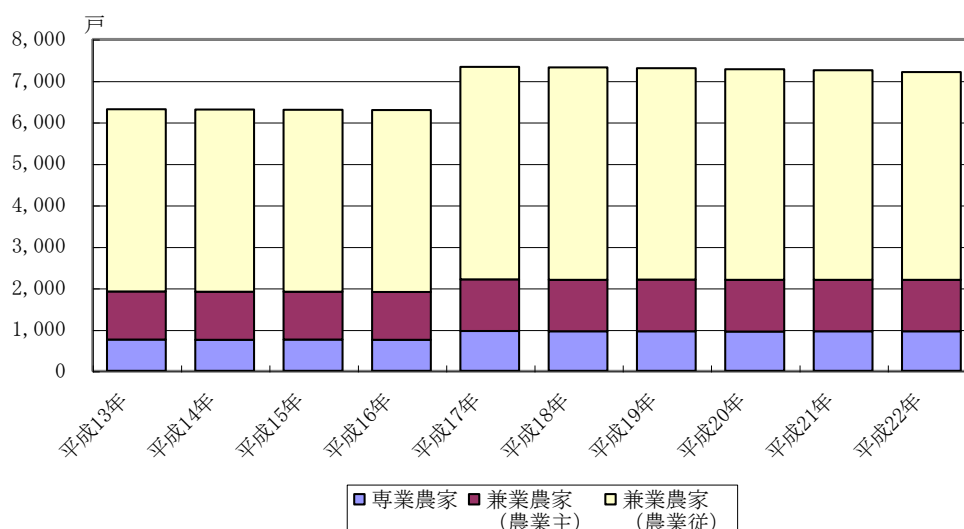
（単位：戸）

	専業農家	兼業農家 （農業主）	兼業農家 （農業従）	総農家戸数
平成 13 年	757	1,155	4,391	6,303
平成 14 年	750	1,155	4,392	6,297
平成 15 年	751	1,154	4,388	6,293
平成 16 年	750	1,152	4,383	6,285
平成 17 年	960	1,244	5,125	7,329
平成 18 年	954	1,242	5,117	7,313
平成 19 年	956	1,243	5,096	7,295
平成 20 年	950	1,241	5,083	7,274
平成 21 年	951	1,241	5,056	7,248
平成 22 年	952	1,241	5,012	7,205

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-1 農家戸数の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移

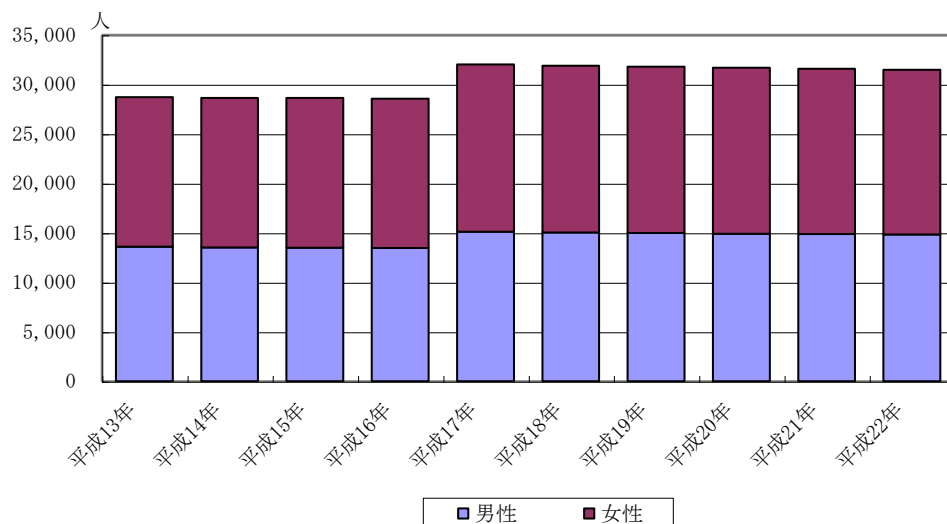
(単位：人)

	男 性	女 性	総 計
平成13年	13,585	15,115	28,700
平成14年	13,507	15,113	28,620
平成15年	13,499	15,104	28,603
平成16年	13,450	15,079	28,529
平成17年	15,102	16,896	31,998
平成18年	15,014	16,850	31,864
平成19年	14,966	16,796	31,762
平成20年	14,908	16,763	31,671
平成21年	14,867	16,701	31,568
平成22年	14,824	16,646	31,470

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-2 農家人口の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移

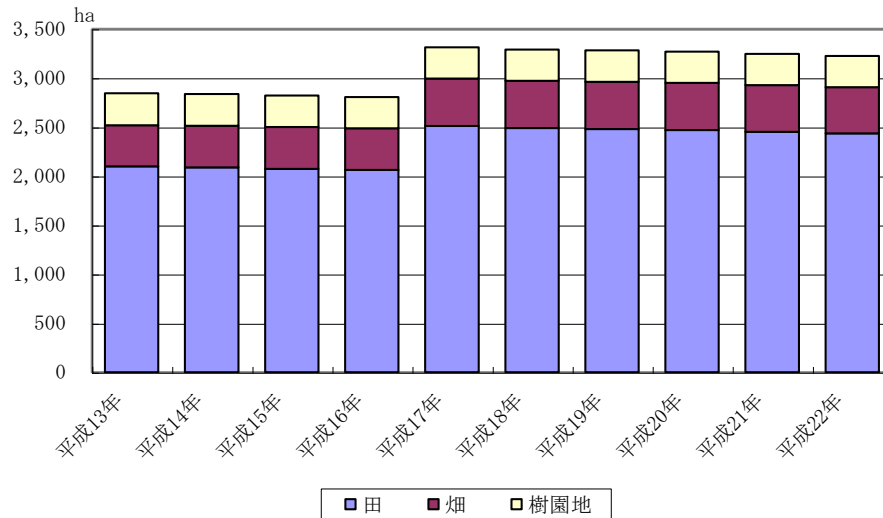
(単位：ha)

	田	畑	樹園地	合計
平成13年	2,098.0	419.2	325.2	2,842.4
平成14年	2,087.0	424.3	322.6	2,833.9
平成15年	2,073.2	425.3	321.5	2,820.0
平成16年	2,061.7	424.7	318.9	2,805.3
平成17年	2,510.0	483.6	318.3	3,311.9
平成18年	2,488.5	480.3	320.2	3,289.0
平成19年	2,477.4	482.8	318.7	3,278.9
平成20年	2,468.8	479.8	319.7	3,268.3
平成21年	2,449.8	474.7	319.7	3,244.2
平成22年	2,433.6	471.9	318.3	3,223.8

※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-2-3 耕地面積の推移



※平成17年4月1日の京北町との合併により、平成17年度統計から旧京北町地域も含む。

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

◆ 主要農作物

京都市では、古くから都への献上等の形で持ち込まれた多種多様な野菜が栽培され、その長い歴史と伝統の中で、「京野菜」として結実し、現在に継承されている。

平成18年農林水産統計（近畿農政局）によると、京都市は、京都府内最大の野菜生産地であり、府内の野菜生産額の40.7%を占めている。

京都市で生産される農作物のうち、生産額が一番多いのは野菜の101億1千万円で、耕種作物全体の82.3%を占めている。また、花きについて府内で最大の産出額となっている〔表Ⅱ-1-2-4〕。

表Ⅱ-1-2-4 農業（耕種作物）産出額

（単位：京都府 億円，市郡 千万円）

平成18年	米	麦類	雑穀・豆類	いも類	野菜	果実	花き	工芸作物	種苗・苗木・その他	耕種作物合計
京都市	191	0	10	9	248	19	17	46	11	552
京都市	143	-	1	14	1,011	27	29	0	2	1,228
福知山市	202	1	19	7	86	16	1	4	2	337
舞鶴市	77	-	4	4	72	5	3	3	2	171
綾部市	163	1	9	4	39	7	0	8	1	231
宇治市	27	-	-	1	152	1	8	31	1	221
宮津市	45	-	2	2	45	4	9	0	3	110
亀岡市	213	2	3	5	86	2	10	0	-	320
城陽市	24	-	0	6	23	20	25	23	1	122
向日市	8	-	-	1	43	0	15	-	2	69
長岡京市	9	-	0	1	61	0	5	-	-	76
八幡市	34	-	0	1	96	4	7	15	0	156
京田辺市	51	-	1	2	82	1	9	25	1	172
京丹後市	331	-	32	17	172	74	7	20	25	677
南丹市	184	1	9	5	83	3	5	0	0	292
大山崎町	2	-	-	0	5	-	4	-	-	11
久御山町	30	X	-	X	155	1	20	1	57	263
井手町	9	-	0	X	12	5	1	4	X	33
宇治田原町	16	X	0	1	12	1	X	50	X	82
山城町	16	-	0	1	79	5	2	9	0	112
木津町	30	-	0	3	32	8	2	-	0	74
加茂町	30	-	0	2	17	3	2	19	2	74
笠置町	3	-	-	X	1	X	-	2	-	5
和束町	16	-	0	0	5	0	-	161	3	186
精華町	29	-	1	2	25	1	6	-	0	63
南山城村	13	-	-	0	4	X	X	90	3	112
京丹波町	101	-	15	3	35	5	0	0	4	164
伊根町	17	-	1	1	11	0	0	-	1	32
与謝野町	83	-	4	4	38	1	0	0	1	130

資料：近畿農政局「農林水産統計（平成18年）」

注：「0」は単位未満，「-」は該当数値なし又は皆無，「X」は数値が秘匿されているものを表す。

◆ 代表的な京の伝統野菜

【賀茂なす】

貞享元年（1684年）の文献に記載があり、古くは現在の左京区吉田田中地区で栽培されていたが、今から約100年前に北区上賀茂、西賀茂及びその付近で、大型なす特産品種として栽培されるようになったようであるが、起源については明らかでない。

【聖護院だいこん】

文政年間（1816年～1830年）に、現在の左京区聖護院に住む農家が尾張の国から黒谷の金戒光明寺に奉納された大根を譲り受けて栽培し、採種を続けるうちに生まれた短形のもので土地に合い、品質の良い聖護院だいこんになったようである。

【堀川ごぼう】

聚楽第の堀跡へ捨てられたゴミの中にあつたごぼうが越年し、大きく育つたことから越年ごぼう（堀川ごぼう）の栽培が始められたと言われており、この独特の栽培方法は、約400年の歴史を有する。

【九条ねぎ】

現在の伏見区深草の地で、和銅4年（711年）に稲荷神社が建立された時に栽培が始まったとされ、歴史は古い。承和年代（834年～848年）には既に、九条で栽培されていたようである。

【みず菜】

京都で栽培されてきた野菜の中で、長い栽培の歴史を持つものの一つで、和名抄（935年ごろ）に「みずな」の名が始めて記載されている。更に、天和3年（1683年）に供物として用いたことが、また、貞享3年（1686年）に東寺九条周辺で栽培されていた記載がある。

【京せり】

承和5年（838年）の文献に、せりの栽培が記載されており、湧水がある低湿地を利用して、広く栽培された。現在のような湧水栽培が行われたのは、約300年前といわれている。

【京たけのこ】

嵯峨天皇の時代（810～823）に長岡京市の海印寺寂照院の開祖である道雄が、中国から孟宗竹を持ち帰り、関西に広まったといわれているが、その当時食料として利用したかどうかは不明である。その後江戸時代に西山一帯に定着して栽培の対象となったという説が正しいとされる。特に西山地域で生産されるものは、栽培技術に支えられ、全国的に最も品質が優れているといわれている。

【えびいも】

安永年間（1772～1781）に当時の青蓮院宮が、九州の長崎から芋の種を持ち帰られ、宮家に仕えていた御料菊や野菜を栽培する御用を承っていた者が、栽培を託された。大きく良質のものができたので、形状から「えびいも」と名付けられて、上鳥羽、九条で栽培されたようである。

(3) 林業

◆ 林業の状況

京都市の森林面積は、平成23年3月現在で61,025haとなっており、京都市総面積の73.7%を占めている。

市内における森林を経営形態別に見ると、個人が76.7%で最も多く、次いで会社の5.9%、慣行共有（民法上の入会権、地方自治法上の旧慣使用权

によって使用収益している山林などを保有する集団の総称）の4.6%と続き、私有林が94.8%を占めている〔表Ⅱ-1-3-1、図Ⅱ-1-3-1〕。

所有規模別では、1ha以上の山林を所有する林家戸数は、2,109戸となっている。しかし、比較的経営が成り立つとされる20ha以上の山林を所有する林家は、263戸（全体の12.5%）にすぎない〔表Ⅱ-1-3-2〕。

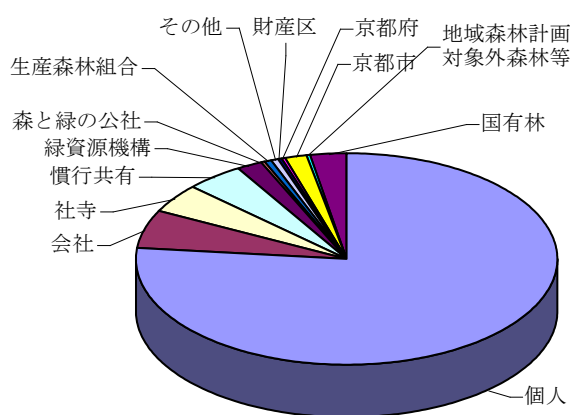
表Ⅱ-1-3-1 経営形態別森林面積

(単位：ha)

私有林	個人	46,797.15
	会社	3,626.23
	社寺	2,570.26
	慣行共有	2,795.96
	緑資源機構	1,212.97
	森と緑の公社	179.29
	生産森林組合	260.71
	その他	393.21
公有林	財産区	141.73
	京都府	212.19
	京都市	1,047.34
地域森林計画対象外森林等		170.62
国有林		1,617.34
森林面積合計		61,025.00

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-3-1 経営形態別森林面積



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

表Ⅱ-1-3-2 所有規模別林家戸数

(単位：戸)

	1~3ha	3~5ha	5~10ha	10~20ha	20~30ha	30~50ha	50ha以上	合計
北区	161	63	68	39	16	13	26	386
上京区	13	3	1	5	4	1	2	29
左京区	208	89	94	63	30	23	18	525
中京区	29	5	3	2	1	2	1	43
東山区	7	4	2					13
下京区	13	2	3	3				21
南区	4	1			1	1	2	9
右京区	302	126	120	61	26	31	42	708
伏見区	69	24	7	4	4	3	11	122
山科区	69	17	10	5	2		1	104
西京区	78	40	17	12	1		1	149
合計	953	374	325	194	85	74	104	2,109

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

(4) 畜産業

◆ 畜産業の状況

平成 22 年度京都市農林統計資料によると、平成 22 年 2 月現在の京都市の家畜飼養戸数及び頭羽数は、乳牛が 3 戸、48 頭、肉用牛が 3 戸、59 頭、馬が 11 戸、170 頭、豚が 3 戸、66 頭、山羊が 6 戸、35 頭、綿羊が 5 戸、17 頭、鶏が 24 戸、18,302 羽、みつばちが 27 戸、249 群となっている。

京都市の畜産物の自給率（平成 21 年）は、肉類が 0.2%、牛乳が 0.5%、鶏卵が 1.0%となっている。畜産物価格の低迷や将来性に対する不安、後継者難等により、乳牛や肉用牛、馬などの飼養戸数は減少

傾向となっている。

畜産農家の 30.0%が市街化区域内に存在しており、市民生活における環境問題との調和を図るため、畜産環境の衛生的改善を目的とした巡回指導を行っている。

平成 21 年の市内における生産額は、牛肉が 1,737 万円、豚肉が 402 万円、牛乳が 3,421 万円、鶏卵が 3,943 万円、鶏肉が 273 万円となっている。鶏肉、牛乳が増加し、牛肉、豚肉、鶏卵は前年比で低下したため、生産額の総計は前年に比べ 9.9%減少し 9,777 万円となっている〔表Ⅱ-1-4-1、図Ⅱ-1-4-1〕。

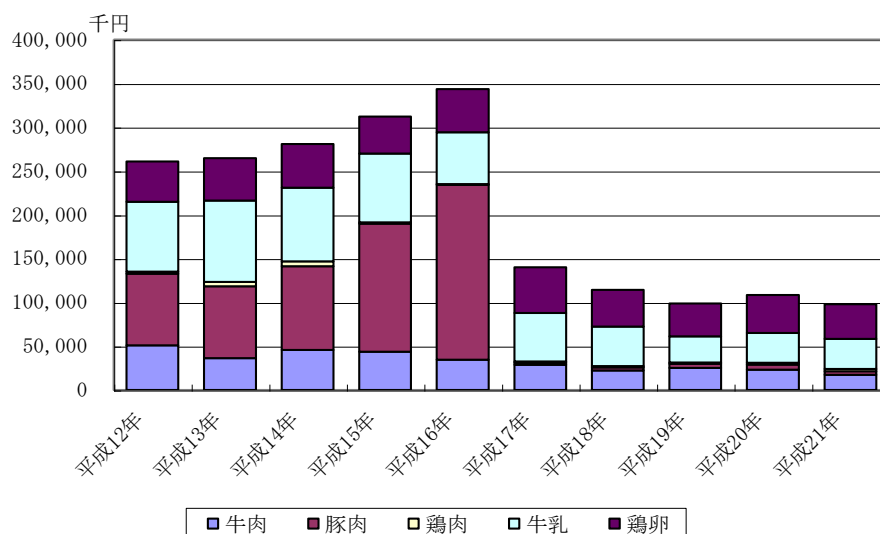
表Ⅱ-1-4-1 畜産物生産額の推移

（単位：千円）

	牛 肉	豚 肉	鶏 肉	牛 乳	鶏 卵	合 計
平成 12 年	50,999	81,689	2,464	79,770	45,826	260,748
平成 13 年	36,223	82,113	4,904	92,961	48,358	264,559
平成 14 年	45,819	95,510	5,393	84,160	49,735	280,617
平成 15 年	43,526	146,255	1,630	78,590	42,148	312,149
平成 16 年	34,482	199,584	1,072	59,048	49,266	343,452
平成 17 年	28,702	2,341	1,455	55,319	52,166	139,983
平成 18 年	22,317	3,510	1,289	45,374	41,703	114,193
平成 19 年	25,262	4,498	1,670	29,957	37,432	98,819
平成 20 年	23,009	5,866	2,182	33,935	43,532	108,524
平成 21 年	17,373	4,019	2,739	34,211	39,429	97,771

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-4-1 畜産物生産額の推移



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

(5) 主要農林産物

◆ 水稻

稲作は、農業振興地域における農業生産の中心となっている。主食である「米」は、近年の状況から、高品質化とともに、より一層の生産性の効率化と低コスト化が求められている〔表Ⅱ-1-5-1、図Ⅱ-1-5-1〕。

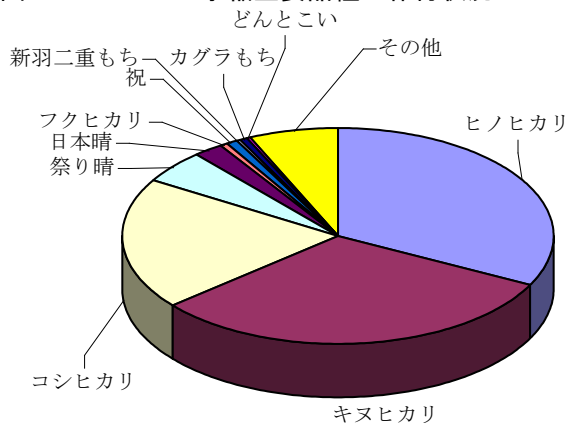
表Ⅱ-1-5-1 水稻 主要品種の作付状況

(単位：ha)

品 種	作 付 面 積
ヒ ノ ヒ カ リ	439.0
キ ヌ ヒ カ リ	420.1
コ シ ヒ カ リ	264.4
祭 り 晴	68.4
日 本 晴	30.9
フ ク ヒ カ リ	8.7
祝	8.2
新 羽 二 重 も ち	6.7
カ グ ラ も ち	5.4
ど ん と こ い	3.6
そ の 他	90.5
合 計	1,345.9

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-1 水稻主要品種の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

◆ 野菜

野菜生産は、市街化区域における農業経営の中心を占めている。長い歴史と伝統の中で、「京野菜」として結実し、現在に継承されている。収穫量上位については、キャベツを筆頭になす、ねぎ、トマト、きゅうりなどであり、京都市内全体では37,620トン収穫している〔表Ⅱ-1-5-2、図Ⅱ-1-5-2〕。

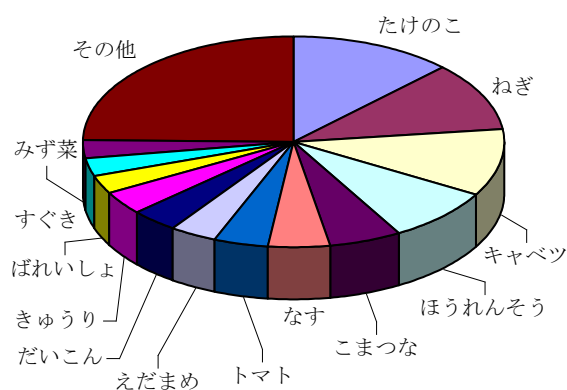
表Ⅱ-1-5-2 普通野菜の作付状況

(単位：ha)

品 目	作 付 面 積
た け の こ	186.4
ね ぎ	155.1
キ ャ ベ ツ	152.5
ほ う れ ん そ う	126.5
こ ま つ な	81.9
な す	72.0
ト マ ト	58.8
え だ ま め	57.1
だ い こ ん	53.3
き ゅ う り	52.9
ば れ い し ょ	41.7
す ぐ き	40.4
み ず 菜	40.4
そ の 他	369.0
合 計	1,487.9

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-2 普通野菜の作付状況



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

◆ 花き

京都市は、生け花の発祥地として古くから花の文化の中心地であり、市民の花きに対する関心は非常に高い。生産についても古い歴史を持っているが、生産量は需要を大きく下回っている。

主な産地と品目は、越畑のオミナエシ等盆花、大原野、向島、静原の花壇苗、桃山の切花などである〔表Ⅱ-1-5-3、図Ⅱ-1-5-3〕。

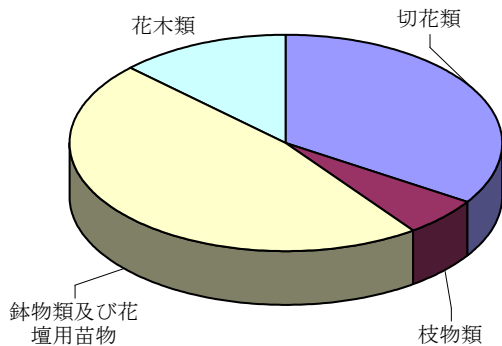
表Ⅱ-1-5-3 花き栽培の状況

(単位：a)

品 目	作 付 面 積
切 花 類	547
枝 物 類	94
鉢 物 類 及 び 花 壇 用 苗 物	750
花 木 類	206
合 計	1,597

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-3 花き栽培の状況



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

◆ 果樹

果樹生産は、かき、ぶどう、ゆずが中心で、市場出荷は少なく、主に直売、観光農業として経営が行われている〔表Ⅱ-1-5-4、図Ⅱ-1-5-4〕。

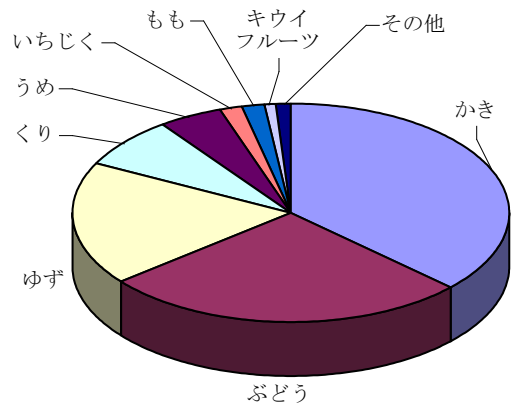
表Ⅱ-1-5-4 果樹栽培の状況

(単位：ha)

品 目	栽 培 面 積
か き	23.2
ぶ ど う	17.0
ゆ ず	11.6
く り	4.6
う め	3.0
い ち じ く	1.0
も も	1.0
キ ウ イ フ ル ー ツ	0.6
そ の 他	0.7
合 計	62.6

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

図Ⅱ-1-5-4 果樹栽培の状況



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」

◆ 木材

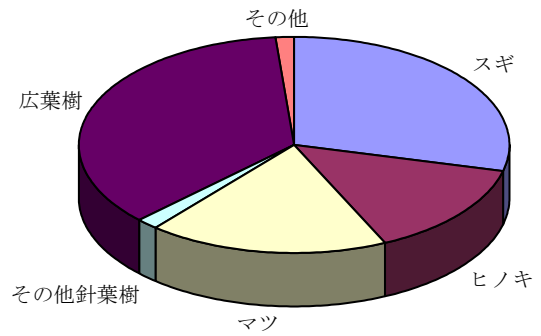
京都市では、磨丸太用のスギ、柱や桁等の原木と
 いった一般用材となるスギ、ヒノキ、マツ、そして、
 家具材やパルプ材等となる広葉樹と、使用目的によ
 り様々な素材が生産されている〔表Ⅱ-1-5-5、図
 Ⅱ-1-5-5〕。

表Ⅱ-1-5-5 林地・樹種別面積の状況（民有林） 図Ⅱ-1-5-5 林地・樹種面積の状況

(単位：ha)

樹種別		面積
針葉樹	スギ	17,140.82
	ヒノキ	8,335.87
	マツ	10,768.71
	その他	955.47
	計	37,200.87
広葉樹		21,141.94
その他		894.23
合計		59,237.04

資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」



資料：京都市産業観光局「平成22年度京都市農林統計資料」